

# 建設時代の遊撃隊員

岸本文男

## はじめに

この地質ニュースには 外国の話もいろいろと興味深く伝えられている。だが 2000年来の交流の歴史をもち 同文同種の隣国である中国の話がでてこない。そこで あれこれと文献を集めて辰砂のことを調べていたのを利用して 中国の地質にまつわる話などを紹介することとした。とくに新疆（正式には新疆維吾爾自治区）を選んだのは 後に出てくる唐延齡君や袁揚さんの話に刺激されてのことで 別に大した理由はない。

## 建設時代の遊撃隊員

この見なれない「建設時代の遊撃隊員」とは 広大な中国の大地を駆けめぐって 地下資源の探査にあたって いる地質調査隊員のことである。中国では 「遊撃隊員」（第1図 日本ではゲリラとよんだ）を すぐく勇敢な愛国者だと尊敬してきたのだから これは愛称というより敬称なのであろう。

彼や彼女たちが そのように呼ばれるようになったいわれは こうだ。1957年の5月に北京地質学院1)の卒業を目前にした学生たちが 劉少奇国家主席2)と懇談した際 同主席が 「君たちの先輩は 遊撃戦によって中華人民共和国を実現したが 今の君たちは 祖国の建設と6億人民の幸せをきづくために 自然を相手に苦しい遊撃戦をしようとしている…… 諸君は 遊撃戦争に従事した先輩たちの関心と期待にそうため 若い『建設時代の遊撃隊員』として りっぱに地質調査をやり……」と 若

者たちを励ました言葉に始まったのである（公称は「地質工作者」）。現在 この地質学院に秘蔵され 学生たちのマスコットとなっている1挺の古ぼけた獵銃があるが これは この時劉少奇国家主席がその若者たちに贈った彼の愛用の品だったものの由。

- 注 1) 北京市西北の大学街にある地質専科大学 4年制 1952年開校  
 1) 大統領といった地位にある人 理論家であり 安源炭砒の大ストライキを成功させた若い頃の話も有名 第2図

## 唐延齡君

唐延齡君は その時の卒業生の1人だが 彼は 中国の西の辺境新疆に赴任した。今もその砂漠や高山や原始林の中で 仲間たちと元気に働いている。

彼の属する「建設時代の遊撃隊」は 1957年に巴米爾高原地方の調査に入った。彼の言葉を借りると「県長（県知事）が大喜びで迎えてくれ 地元の老人を集めて知っている限りのその山地の様子を聞かせてくれた。ある老人は 砂金を拾ったばかりに地主に責め殺された友の遺言を守って 14年間 誰にも話さなかったその砂金地を私たちに詳しく教えてくれた。

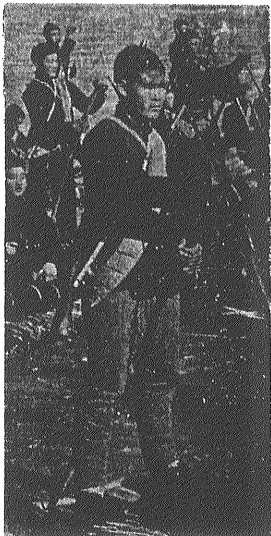
ある老人は 布と紙で幾重にも包んだものを贈ってくれたが その中味は孔雀石だった」

唐君たちは 1年間の「遊撃戦」の結果（第3図）金・鉄・鉛・亜鉛・銅と水晶・雲母の各鉱床を発見した。翌年の末には 別の地方で大規模な石綿の鉱床を発見したと伝えている。そしてそれらの現在は「地下資源の

所在をみつめるたびに 僕たちはなんともいえない喜びを感じる。僕たちが足跡をのこした場所に工場や町ができるのを見ると 限りない幸せと誇りに胸がふくらむ」と唐君が語っているところからも推察できる。

## 混乱と困難

新中国が誕生した1949年10月1日から このようにすっきりと地質調査が進んだわけではない。相当の混乱のあとが記録されている。そこで 1950年11月1日から7日まで中国地質工作計画指導委員会第1次拡大会議なるものを招集して 3つの結論をだした。参考までに要約すると ①科学研究が人民のために役立つという観点を確



①遊撃隊員たち

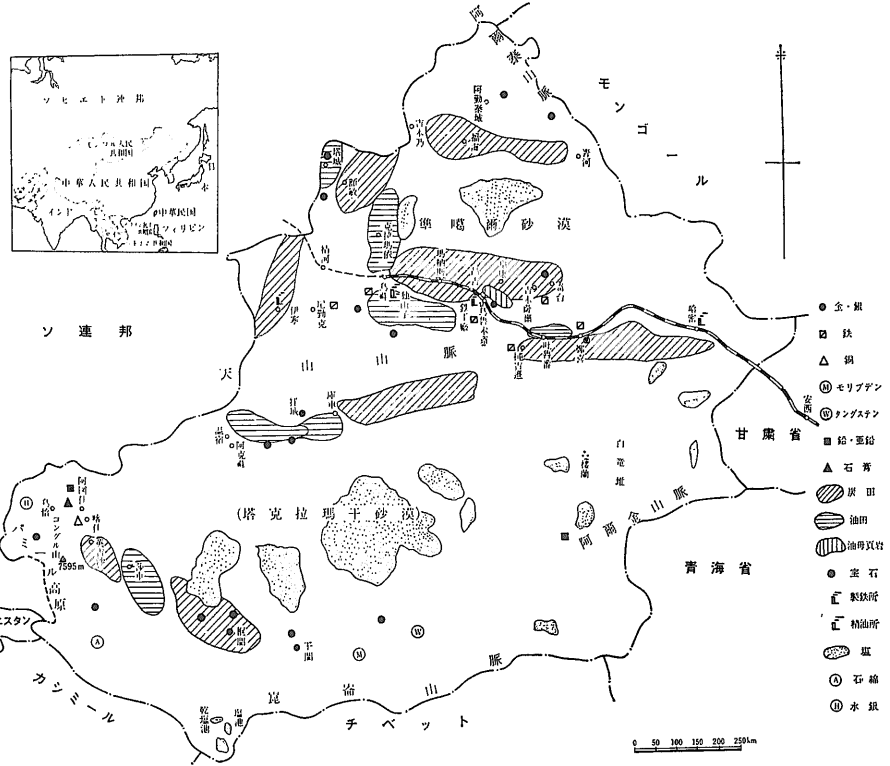


②劉少奇国家主席（右から2人目）

- 立し 理論と実践を結合させること
  - ②理論研究および試験研究を計画的に行なうこと
  - ③集団的研究を行なうこと
- の3つである。

ところが 課題は大きくて人手は足りず 経験もまた不足しているために 計画がうまく進まない として 1952年11月17日～12月8日までの全国地質工作計画会議となり 調整にだいぶ苦勞をしたらしい。たとえば その際の代表的な反対意見は「ソ連に学べ」といっても ソ連はソ連 中国は中国」とか 「計画水準が高すぎる」などだったということからみても。 それらの賛否両論をさげて 翌1953年1月20日から24日間 全国地質工作者会議を開き ここで 現在まで貫いている地質調査計画の基本方針 いくわ「新人の大量養成と機器の充実」 いくわ「地質工作者の合理的配置」 いくわ「個人の能力の向上」 そして「机よりも野外へ」などを決めたのである。

かくて若者は山野をかけめぐり 40歳位になると研究室と後輩の養成へ向かうシステムが作られたわけ。



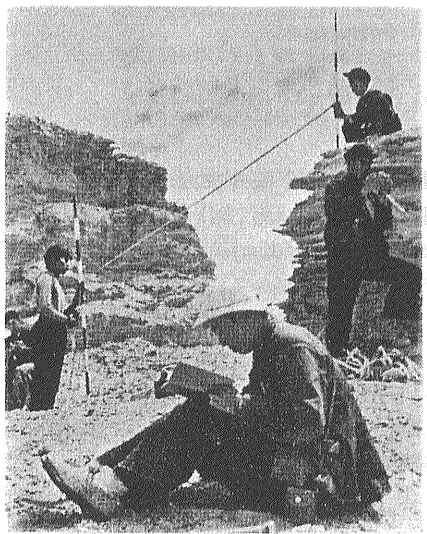
第5図 新疆維吾爾自治区鉱産図

### 石炭と鉄

ここで 新疆維吾爾自治区の地図を開こう (第4図)。私は香港の大中書局から出版された「最新中国分省地図」20ページを開いている。次々に現われる地名のほとんどが この地図に出ているので。新疆にはたいていの地下資源が揃っていると中国でいっているが 確かに鉱物資源は豊富らしい。順を追って紹介することにする。

石炭は 天山北部「東は奇台から西は鳥蘇にいたる400～500km) 崑崙山北麓 (和闐・英吉沙一帯の全長約450km) 準噶爾盆地北辺(和布克賽爾蒙古自治州から額敏県にいたる約200 km) 阿勒泰 (吉木乃・福海・青河)の各県に及ぶ約150 km) 天山西部 (伊寧から塔城にかけて約150 km)・天山東方 (哈密から吐魯番へかけての約250km) の6炭田地帯に分布する。 その中でも天山北部炭田の鳥魯木齊県八道湾炭砒や吐魯番県吐魯番炭砒のコークス用炭が量質ともにすぐれ とくに八道湾炭砒は 中国最大級の炭量とかで10億トン以上と公表している。

1956年9月6日の人民日報によれ



①試錐位置をきめる遊撃隊員 (Chinese Year and Students)



②アングレン炭砒で水力探炭中のハイドロモニター (今日のソ連邦)

ば 全新疆の炭量は419 億トンで 当時の東北に中  
 地方を併せたよりも多い。 加えて 1962年に発見さ  
 れた天山南部の炭層は どのあたりかは詳らかでないが  
 その一部の計算終了分だけでも30億トンに達するという。  
 土地も広いが それだけに炭量もまた大きいものである。

1940年頃から 烏魯木齊(ウルムチ) 阜康(フーカン) 山  
 街炭砒(シヤンシェン)・哈密(ハミ) 三道嶺炭砒(サウダウリン) (東西22km 南北1 km 炭  
 層平均10m 鉱量4 億トン) などは 露天掘採炭を始め  
 ている 1942年の出炭は 全新疆で182,600トン 1947年  
 には176,400 トンであったという。 新中国となつてか  
 ら その生産は拡大されて 1955年9 炭砒となり 蘭新  
 線の半開通——ソ連のアルマ・アタまで通じて初めて開  
 通といえるが 国境の伊犁地方でうまく話がまとまらな  
 いから半開通——を機会にして 1960年頃から本格的な  
 機械化採掘(第5 図)に入った。

ちなみに 1960年における全中国の石炭生産量は4.25  
 億トンと ソ連に次ぐ世界第2 位で 石炭工業部の張霜  
 之部長(大臣)によれば 水力採炭法の普及は世界第1  
 位とのことである。 水力採炭法の本場 ソ連をその点  
 では追い越したということになる。

しかし もう一面をみておかないと間違ふ。 それは  
 後にもでてくるが いわゆる集団組織の戦術 人海戦  
 術である。 石炭についても この人海戦術は力を発揮  
 しているようだ。 というのは 人民公社(People's  
 Commune)の直轄する小炭砒が全国で59,000余(1958  
 年) その出炭量2530万トン(当時の全出炭量2.9 億ト  
 ン)というぐあいだから。 この人民公社について語る  
 となると 大きくページをさかねばならないので 割愛  
 するが たとえていえばアミーバのように単独でも生活  
 できる代物なのだ。 現代中国を語るのに 人民公社に  
 ふれないのは 人を作って魂入れずと同じことと思つて  
 よかろう。

ついでに新疆の石炭の炭質にふれると コークス用炭と  
 コークス用補助炭のほかに 5000~8000 カロリーの褐  
 炭・褐性有煙炭・長焰炭・ガス用炭があつて 蘭新線用  
 や工業用 一般家庭用におもに使われているとのこと。

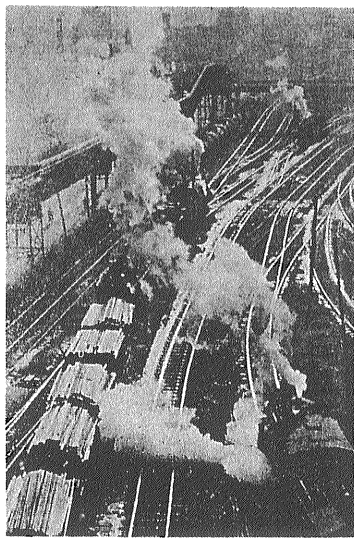
鉄 鉱 あちこちで発見されているようだが 烏魯木齊  
 県にある赤鉄鉱々床は Fe平均50%以上 鉱量億トン台  
 を誇るもので 目下採掘中。 1963年の出鉱量は 1962  
 年の144% だけわかっている。 それに 鄯善(シュワン  
 ツォ) 托克遜(トウクソン) 尼勒克(ニレイク)などの磁鉄鉱々床と 烏蘇(ウスウ) 吉木薩爾(ジ  
 ムサル)などの地域に分布する菱鉄鉱々床も価値が高いとのことで  
 その一部は1957年から出鉱し始め 現在では残りの大部分  
 が鉱石を新疆内の各製鉄所へ送っている。

中国政府が公式に伝えたところによると 1962年末に  
 は すべての省<sup>3)</sup>に大型ないし中型の洋式製鉄・製鋼所  
 があつて 生産しているというのだが この新疆の場合  
 には 昌吉(チヤンチ)・頭屯河製鋼所<sup>4)</sup>があり 最近は新疆八・一<sup>4)</sup>  
 鋼鉄廠と名を改め 1大コンビナートとしての近代的な  
 設備(たとえば高炉255m<sup>3</sup>×5 基<sup>5)</sup>)の下で 製鋼まで  
 の一貫生産量を急増し(第6 図) 鞍山や石景山 上海  
 や漢陽 包頭や重慶などの各製鋼所と生産拡大率の先陣  
 争いを始めている。 それにまけじと哈密製鋼所もその  
 5 基(255~600m<sup>3</sup>)の高炉に基づいて 生産を行なつ  
 ている。 ごく最近には 伊寧製鉄所の名も文献にみら  
 れるようになってきた。 この伊寧の町の自慢の種は  
 1944年11月に伊犁・塔城・阿勒泰の三地区で武装叛乱  
 (いわゆる 三区革命)を行なったサイフデン(現新疆  
 維吾爾自治区主席)らの革命政府と革命軍司令部のあつ  
 た町だということ。 ここで 新疆をもっと知るために  
 新疆の現代史に少しふれてみよう。

- 注 3) 1960年10月1日 チベットの歴史上初め  
 てのチベット製鉄所1号高炉から出鉄  
 1962年には1号平炉活動開始により 全  
 省に製鋼所誕生となる  
 4) 八・一とは中共軍(正式には中国人民解  
 放軍)の建軍記念日8月1日のこと  
 5) 中国の最大の高炉は包頭の1号高炉で  
 1513m<sup>3</sup> 平炉は鞍山の600トン(世界1)

### 新疆維吾爾自治区の成立

新疆は 維吾爾族(第7 図)70% 哈  
 薩克族10% その他20%の計13民族の住  
 む所で ギリシヤの王ユウティデムスの  
 侵入 漢朝の張蹇軍の支配以来 民族間  
 の反目が助長され 伝統的に民族主義的  
 かつ排他的となり 長い満族支配に対す  
 る抵抗は 1928年の揚総督の暗殺に次い  
 で 1931年に哈密で維吾爾族の対満叛乱



◎新疆八一製鋼所  
(北京写真展から)



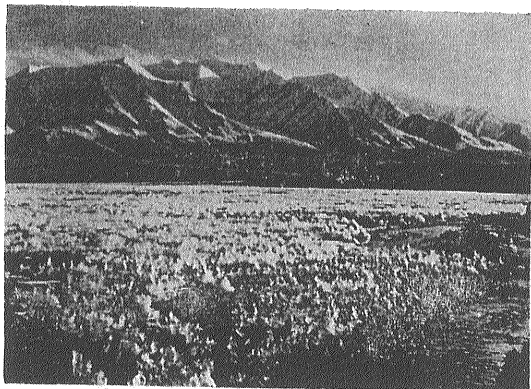
◎ウイグル族の若ものたち  
(中国画報)



⑧ ウルムチ市街目ぬき通り (人民中国)

が起り 以来1949年まで新疆には平和はなかった。1933年の喀什噶爾を中心とした「東トルキスタン共和国」の独立も 国民党軍によって根こそぎに破壊された。しかしこの破壊はやがて国民党にとって手痛い仕返しを受ける種となったのだが、

新疆の人々は この1933年をもう1つの記念すべき年だという。要するにコムニストの小さな1団が ゴビの砂漠をこえて 初めてこの地に入った年なのだ。彼らは少数民族の間で活動し 甘肅の馬仲英軍閥に対して維吾爾族と共同して戦い<sup>6)</sup> 1940年 時の国民党軍司令官盛世才將軍にそのほとんどが殺されてしまった。しかし 陳道幸・毛沢民<sup>7)</sup> らの1団は 少数民族の人々に強い共鳴を与えたらしく 前述の「三区革命」をよび 1949年9月1日に解放軍(いわゆる中共軍)が甘肅の安西に入った時 この地方革命軍の密使が援助の要請をしている。そこへ 情勢を見抜いた国民党軍司令官陶峙岳將軍が「平和解放の訴え」を放送したので 解放軍は13年前の悲涙の地<sup>8)</sup>をこえて塔塔爾族同盟軍と合流し 1949年9月26日 毛沢民らの眠る鳥魯木齊市(第8図)に入り 別の維吾爾族革命軍が天山山脈をこえ 恨みつもる喀什噶爾を抵抗なしに解放したというわけである。それから長い時間をかけて民族間の反目の残りかすを



⑨ 新 疆 の 山 々

溶かしながら自治区の準備をやり選挙をやって 1955年10月1日正式に新疆維吾爾自治区が成立した。

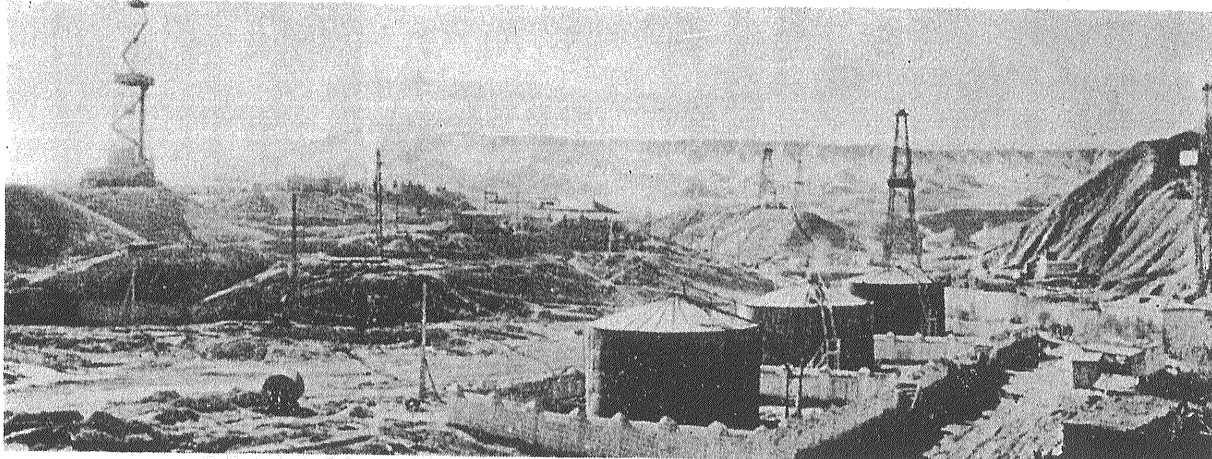
- 注 6) 東トルキスタン共和国の徹底的破壊をやったのは 馬仲英軍閥そのものだったので 維吾爾族との共闘は容易だった  
7) 毛沢東現中国共産党主席の実弟 ある記録によると実際に彼が新疆に来たのは1933年より後とも考えられる  
8) 1936年 当時 大退却戦(いわゆる大長征)をやっていた労働赤軍(後の人民解放軍)の1部は 司令部の命令に勝手に違反した張国寿將軍の中央司令部の名をかたって使った命令で新疆をめざして進み 2万の兵士が馬軍閥の攻撃によってほとんど全滅した 同將軍は現在台湾に居住

### 袁揚さん

ここでもう1人 女性の「建設時代の遊撃隊員」に登場してもらおう。

1961年6月17日 新疆のコングル・チュウビエ・タグ(白い帽子の山 7595m)に登頂し 女子登山高度の世界記録を作った中国女子登山隊のリーダー 袁揚さん(当時26歳 現中国登山協会副主席)は 北京地質学院の出身である(第9図)。

彼女は こういつている。 「私の専攻は鉱床調査ですから あらゆる天然資源を探しあて これを祖国の社会主義建設に役だてるのが私の願いです。 私たちの祖国には山が多く……。 とくに西部には 世界の屋根と呼ばれる山脈が幾重にも横たわっています。 こうした未踏査の空白地帯は 私たち若い世代が開発し 征服するのを待っているのです……」。



⑩ ク ラ マ イ 油 田 の 一 部 (1 9 5 5 年 人 民 中 国)

そして 登山の成功について 「そのおもな原因は なんといっても 組織と集団の力にあります」と述べている。 前述の唐延齡君 後述の彼女の話 「新疆生産建設兵団」。 これらは 今日の中国のあらゆる面にみられる興味深い例のようだ。 さて 彼女の仲間たちの集中された石油資源の話に移る。

## 石油

石油の分布地域は 準 噶 爾盆地西部(クラマ依・塔城)・天山北部(瑪納斯・烏蘇・烏魯木齊・吐魯番)・天山南部(溫宿・庫車)・塔里木盆地西部(沙車)の4地域にわけられる。 現在開発中のものは 克拉瑪依・烏蘇の2油田で とくに産油量の多いのが克拉瑪依油田である。 その東西の幅約40km 南北 130余km。 推定埋蔵量6~10億トンというもので 玉門油田(中国第1の産油々田)のものよりも凝結点が 20~30°C低く 含硫黄分もまた半分以下という品質の由。 この油田の油徴が 1940年頃 維吾爾族の獵師蔡審白さんによって偶然に発見されたのが始まりで 前述の盛世才將軍や陶峙岳將軍がその一部を採油した程度で 解放を迎えた。

解放軍に対するヨルバズとウズマンの叛乱が<sup>9)</sup> 静まった1950年の夏から 中ソ合同地質調査隊によって まず基礎的な地質調査が始められ 白竜堆砂漠や準噶爾砂漠 それに広大な50万km<sup>2</sup>に及ぶ塔克拉瑪干砂漠の地質についても 当時の「建設時代の遊撃隊員」は8回横断してデータを集めた。

かくて 1955年の夏7月 準噶爾砂漠のジンギス汗山の南側1号井の掘進が始められ そして 同年10月29日待ちに待った大噴油をみ ここに克拉瑪依油田の再登場となった(第10図)。 クラ(黒い)・マイ(油)の名に恥じないかのように。

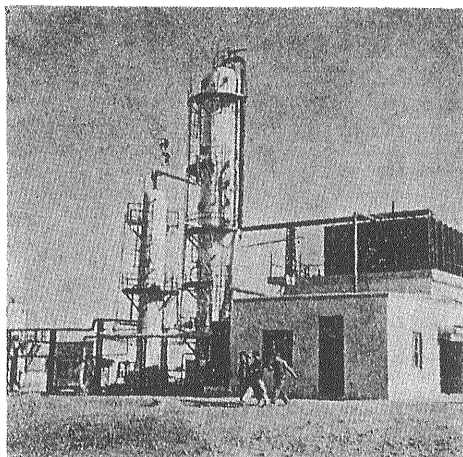
独山子精油所が建設拡大されて(第11図) 1956年中に噴油した10本の油井と1958年までに新たに自噴した22本の油井からの産油を処理したけれども 油井は北への

び 精油能力とのバランスがくずれてきたので イライラしながら待ったのが蘭新線の半開通であった。 1952年10月に蘭州—哈密—吐魯地—烏魯木齊—烏蘇—精河をへてソ連のアクトガイ—アルマ・アタ市に結ぶ鉄道工事が始まっていたから、 でも 工事はまず砂漠との戦いで難行し(第12図) 1958年にやっと哈密まで そして最大の難関烏鞘嶺を1961年にこえて 輸送問題も解決し独山子精油所の近代化拡張工事のテンボも早くなり 現在では独山子精油所ですべてをこなしているとのことである。 なお 1962年には烏魯木齊近郊の油母頁岩が云々されているようだが さて現在どうしていることやら。

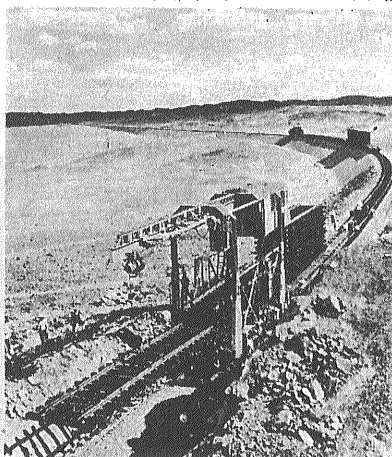
注 9) ヨルバズ・ハン(維吾爾族)とウズマン(哈薩克族)の2人も民族分離主義者 天山山脈にこもって「三区革命」軍と闘った後 南東の阿爾金山にこもって 今度は直接新中国に反対してあばれ回った ウズマンが同族の解放軍に殺されたのは皮肉である ヨルバズはラサへ逃げた後 行方不明となった

## 石油事情と石油探査

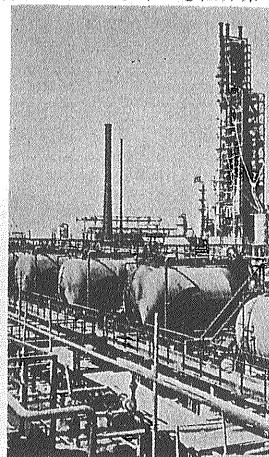
1958年に 北京で開かれた工業展に展示されたところによると この油田は当時の中国4大油田(玉門・冷湖・克拉瑪依・南台)の1つとなっていた。 ところが1964年3月に中国石油工業省石油科学院の侯 祥麟副院長(1953年開校の北京石油学院創設者の1人)の述べた話では「中国4大油田・5石油基地の時代は去り 12油田・8大石油基地に変わりつつある」そうだ。 新油田地域とし 松 遼・蘇北・江漢・太湖と福建・広東・江西・瀾 江の名がみえ 1964年5月には大慶油田の名が公表され 精油コンビナートとしての名は 蘭州・玉門(第13図)・撫順・錦西・独山子・茂名・上海・旅大があがっている。 原油の産出量は 1960年で550万トンと公表したが その後は%でいうことにしたらしく 1963年の分は1962年の295%とのこと。 とにかく増えていることはたしか。 油母頁岩の方は割愛する。 石炭液化も。 とにかく石油埋蔵量は少なくとも世界第3



㉑ トンシャーンツー精油所(1955年の建設時)  
(人民中国)



㉒ 砂漠に鉄道をひく  
(ランシン線の建設)  
(中央公論)



㉓ ユイメン精油所(1959)  
(人民中国)

位で 第2位に近づいているのだそうだ。

そこで 中国で用いられつつある石油探査法について  
のべる。 通常の地質調査や地球物理探査・地化学探査  
などは どこでも同じだから除外して。

1つは もっとも原始的な方法で 油徴の発見に人々  
を動員したこと。 これは人民公社の全国的な協力を得  
て 実に多くの情報を得た。 何せ6億7500万人の人口  
の1/10の人が調べ回ったとしても6750万人だから 油徴  
があれば 見つかりましょう。 そこで「建設時代の遊  
撃隊員」の出動というわけ。 前記の侯祥麟氏のいう  
「60数カ所の有望な油田帯・数10の大ガス田の発見」の  
大きな根拠もここにあるというものだ。

もう1つの方法 今度はもっとも近代的な方法である  
核物理学・放射地球化学を応用した探査がある。 飛行  
機を用い あるいは自動車を利用して(第14図) 詳し  
い調査がされている。 とくに試錐の効率を50%から75  
%(4本に3本は石油にあたる)に高めたと称する2・  
3の油田の場合 携帯式試掘用中性子発生機・高感度放  
射能測定器・電子計算機を組み合わせて活躍している。  
その基になる原子炉(第15図)は これもソ連の援助で  
作ったから 1960年7月に ソ連の全技術者が突然かつ  
一勢に引揚げてしまった後も 仕事を進めることはでき  
たに違いない。

### ぶどう・小麦

中国の地勢は 総じて西の方が高く 東の方が低くな  
っている。 西の青海・チベット高原は海拔4000mをこ  
え 世界で1番高い所で そこに珠穆朗瑪峰(エベレス  
ト山)がある。ところが 新疆の吐魯番盆地は中国で一  
番低い所で 海面下154m。 しかも中国の最高温地で  
48℃になることもあるとか。 ここは鉄・石炭・石油に  
恵まれているだけでなく ぶどうの名産地で 干しぶど  
う作りでも有名である(第16図)。 ぶどう酒のことが  
わからないのは残念。 果物といえば 哈密のメロンが

ある。 今では哈密よりも鄯 善の方が多産しているが  
かつて三蔵法師が伊吾国で珍しい瓜を食べたのは この  
哈密のことであり 高昌国でうまい果物を得たというの  
は吐魯番のぶどうのことだという。 農業の状況を推察  
できるよう 火星人民公社のコンバインを紹介したが  
棉花と小麦の生産額は毎年のことながら 内蒙古・チベ  
ット・青海・雲南の各省を合せたよりも多いとのこと  
である。

### 砂漠に挑む

農業の発展に力あった砂漠の改造への苦心をお伝えす  
ると 話は1949年の暮の阿克蘇にさかのぼる。

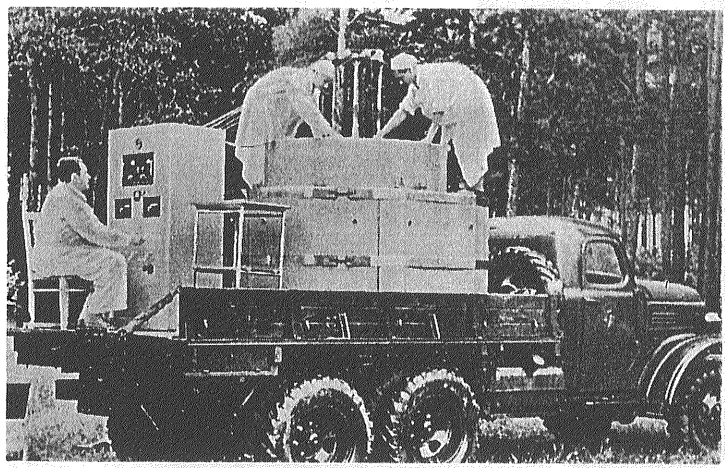
当時 崑崙山脈の麓に残る国民党軍をうつべく集結し  
た解放軍第15兵団に属する1万の兵士。 目ざす和闐ま  
で500km余り。 彼らはやがて馬を頼りに砂と戦いなが  
ら 17日間の強行軍をやったが 彼らは この荒涼たる  
砂漠にも強大な生命力が埋もれていることに気づいた。

この辺の事情を その時の1兵士である郭鵬は「解放  
軍文芸」にこう書いている。

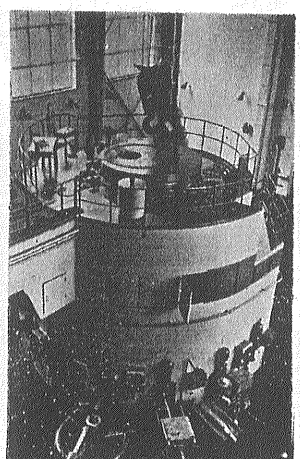
「……人々の熱血はたぎってきた 塔里木には水もあれば 土  
地もある どうして開発せずにおこうか それが竜なれば  
われわれは竜に乗ろう……それが金剛石で作ったトーチカ  
であろうと われわれは必ず占領してみせる その時 わ  
れわれは塔里木開発の決心を固めた」

彼らは願いかなって 1955年「新疆生産建設兵団農1  
師」として塔里木の塔克拉瑪干砂漠に配置された。 そ  
して1960年までに60万ヘクタールの砂漠を 緑の作地に  
変え(第17図・第18図)。 102の大型機械化農場を作  
ってしまった。 1万km 以上の水路によって塩を洗い  
流しながら。 次々に若者たちが続いた。 北京から上  
海から南京からと。 それで農2師・3師と誕生した。

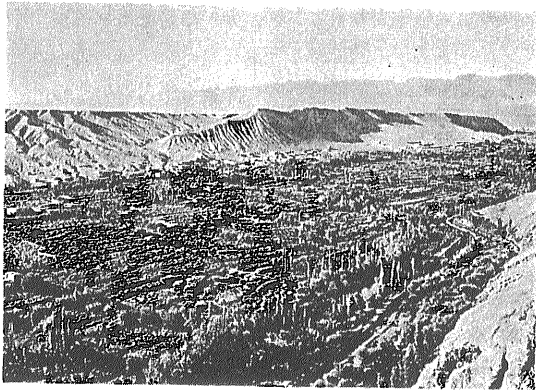
これで 少数民族も奮起し 各人民公社の砂漠征伐が  
始まったのである。 日本の屯田兵に似ているが より  
組織的で集团的 いわゆる人海戦術の妙となると 独特



⑭ 核物理石油探査車(今日のソ連邦)



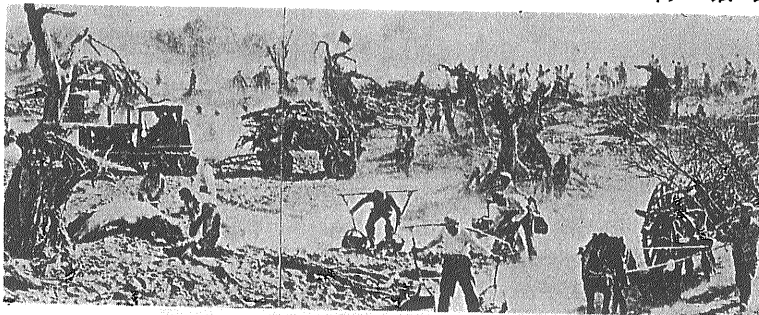
⑮ 1957年に建設された 7,000kwの重水型原子炉



⑮ トウルフアン盆地のぶどう畑  
のものだ。

### 新興都市の誕生

こういった調子で 新しい町が次々に生まれてきた。いわく 人口7万の工業都市石河子 石油都市克拉玛依 製鉄都市鉄工廠 農業基地阿拉爾吉や克克孜蘇 鉄・石炭都市吉木薩爾などなど。でもサイフデン主席はいう。「少なくとも もう1000万人の人口がほしい」。中国全土の1/6の面積(ドイツ・フランス・イタリアを合わせた広さ)に 目下約700万人では 資源も泣こうというものだ。今からの土地である。蘭新線の活動に加えて 北京—烏魯木齊幹線空路に 阿爾タイ カシウ ターチヨン イーニン ホーグン クラマイ ハミミ トウルフアンなどの飛行場が利用されて 東部平野諸省との結びつきも ますます強くなると予想できる(第19図)。



⑯ タリム盆地の開発にとりくむ新墾の生産建設兵団



⑰ タリム盆地の棉花の山

### 塩の原

新疆の誇る——場合によっては困る——資源の1つに塩がある。砂漠につきものの岩塩・湖塩・泥塩 それに石油と関連する井塩である。地図にも「塩池」「乾塩池」と 読んだだけでも塩辛く感ずる名があちこちにみられる。化学工業原料に不足はないけれども この化学的な利用となると あげて今後にありといったところ。石河子や烏魯木齊に化学工場の建設が噂されている程度だから。それとも知らぬは私ばかりなりか。

古都楼蘭の眠る塩の砂漠 げに新疆は塩の国である。この新疆には宝石も産し おもなものは 鄯善 と拜城の水晶 烏魯木齊の碧玉 鄯善のめのうと干闥・和闐の玉である。阿片から国民を救うために戦った かの英雄林則徐も 流刑の地烏魯木齊でこの碧玉を楽しんだと伝えられている。彼が生きていたら 新疆最大の烏魯木齊陶磁器工場の美しい陶磁器 そして その工場が1963年から売り出したいろいろなガラス製品をも愛したことであろう。

### 非鉄金属

この開発は 余り進んでいるとはいえない。目下生産しているのは 阿爾泰山脈の金 銀鉱で その代表的な産地は阿爾泰山脈地域および塔城地域である。毎日新聞が その経済欄で 「中国は予想外に多くの金を保有している」と例をあげながら説明していたが この鉱床区も1役買ってるようだ。また 巴米爾高原の金(蒲犁)・銀・銅・鉛・亜鉛・水銀・石綿 それに崑崙山麓のタングステン・モリブデン 阿爾金山脈北側の鉛・亜鉛・石膏などで その中でも古生層・中生層中の金・銀・銅・鉛・亜鉛と硫化鉄を生産し始めた(1958年) 烏恰県地方が中心で 阿図什冶金工場 烏恰精錬所が盛んに活動し 崑崙モリブデン鉱床の規模もきわめて大きいと発表され すでに冶金工場の建設に入った由。「地質学報」にも場所を知る手がかりが



⑱ アルタイ飛行場(人民中国)

得られないが いずれ公表されることであろう。<sup>天山</sup>天山山脈の資源は ソ連側からおして考えるとタングステン・モリブデン鉱脈に富んでいる筈であるし 金鉱も豊かな筈である。交代鉱床もまた少なくないと推定する。もう少し検討してみよう。なお アルミニウムや硫黄の生産報告があるがこれまた 産地はわからない。

学校と病院

中国政府が 未開の土地に対しすぐ手をつけるのは 1に病院 2に学校 3に託児所・協同組合といわれる位に 病院も学校も新疆にたくさんできている。病院は 新疆でとくに性病関係と産院の建設から始まった。というのは 解放当時の性病患者は全人口の50%前後だったし 遊牧民は習慣としてお産を草の上でやり しかもヘソの緒を汚れた茶碗のかけらで切るのだから 出生児の死亡率が実に60%をこえていたのだ。だから産院をいたる所に作ったし 衛生思想の普及と医師看護婦の養成も急がれた。哈萨克族に例をとると 1949年10月に4万だったのが 1959年には11万になっている。性病もほとんど退治し得たという。学校は 省都烏魯木齊市の新疆総合大学(8学部 学生数2000 4年制 1950年開校)・八・一農業大学・外語短大・鉱山冶金大学(3年制)・農牧技術短大・林業技術短大・看護学院と新疆医科大学と付属病院 それに各人民公社の技術業余学校と工場の業余大学(週2日と各残りの日の夜を使う2年制大学) 加えて 各県営の短大と様々のものが 教育

に資している。

だから 今では少数民族出身の技術工作者(技師)も生まれ 指導者となってきている。たとえば 新疆だけに住む12000人の民族 錫泊族から 1963年だけでも4人 鉱山冶金大学を卒業し うち2人は選鉱学科 残る2人は鉱山機械学科の課程を終えて 今新疆で働いている。

結婚の話

新疆の維吾爾族は 長生をする。聞くところによると たばこも酒もやらず きまった時間に一定量のあつさりした食事をとり 歌ったり踊ったりする習慣がある由 私にとっては耳の痛い話だ。この人たちの結婚は昔とは大分様式が変わってきたそうだが 変わらないのは ナンとよぶパンを1つつつ食べる事。日本での三々九度の盃のように、しかし このナンがたいへんなしろものでわざと塩水につけてあつて(さすが塩の新疆)塩辛くて苦い。でも必ずお2人さんともに全部食べきらねばならない。これは 新婚夫婦が苦楽を共にし 終生の愛情を誓うしるしだから。日本では さしずめ「サンザン クローする」ということか。

では 解放前の800人から 現在は30万人<sup>10)</sup>をこえたという「建設時代の遊撃隊員」の活躍を 同じ地質関係者の1人として期待しながら 新疆あれこれを閉じる。

註 10) 1952年 207隊 19,396人 1956年 762組 165,767人 (筆者は鉱床部)

〔付録〕 日 中 関 係 用 語 対 称 表

| 中国語   | 日本語    | 中国語        | 日本語    | 中国語          | 日本語    | 中国語        | 日本語            | 中国語   | 日本語     |
|-------|--------|------------|--------|--------------|--------|------------|----------------|-------|---------|
| 鋅     | 亜鉛     | 煤          | 石炭     | 岩漿           | マグマ    | 鉛          | 試錐             | 氮肥    | 窒素肥料    |
| 錳     | マンガン   | 煤油<br>(石油) | 石油     | 鑛度           | 熔融度    | 礦井<br>(坑井) | 堅坑             | 苦水    | 硬水      |
| 銻     | アンチモン  | 鉻          | クロム    | 玻璃           | ガラス    | 礦          | 鉛石             | 鐳射綫   | ラザウム放射綫 |
| 鈦     | トリウム   | 鋇          | 蒼鉛     | 料器           | ガラス器   | 地壳         | 地殼             | 勘探    | 地質探査    |
| 鉛(鉛石) | 金剛石    | 砒苗         | 露頭     | 花崗石<br>(漢白玉) | 花崗岩    | 大陸         | 大陸             | 煉焦炉   | コークス炉   |
| 鉄     | 鉄      | 砒層         | 鉛層     | 長石           | 長石     | 強弱         | ジュラルミン         | 卡车    | トラック    |
| 鉬     | モリブデン  | 油气         | 天然ガス   | 云母           | 雲母     | 水門汀        | セメント           | 流質(液) | 液体      |
| 鋁     | アルミニウム | 磷(磷)       | 磷      | 剛玉           | コランダム  | 水庫         | ダム             | 吉普車   | ジープ     |
| 汞(水銀) | 水銀     | 菱苦土        | マグネサイト | 断层           | 断層     | 公尺         | メートル           | 焦炭(煤) | コークス    |
| 鎂     | マグネシウム | 鉄沙         | 砂鉄     | 地縫儿          | 割れ目    | 公分         | グラム<br>センチメートル | 胶卷儿   | フィルム    |
| 錳     | タングステン | 輪換砒床       | 交代鉱床   | 緑气           | 塩素     | 公斤         | キログラム          | 煤气    | 石炭ガス    |
| 鐳(鐳錠) | ラザウム   | 矾石         | 明礬石    | 神            | 砒素     | 公里         | キロメートル         | 鹼性    | アルカリ性   |
| 鍬(白銅) | ニッケル   | 鋁土砒        | ボーキサイト | 盐湖           | 塩水湖    | 公亩         | アール            | 火磚    | 耐火煉瓦    |
| 鈹     | ベリリウム  | 鉛          | コバルト   | 海灘           | 砂浜     | 化分         | 化学分析           | 水电站   | 水力発電所   |
| 鈣質    | カルシウム  | 輪环水        | 循環水    | 核力           | 核エネルギー | 进化         | 進化             | 迴旋加速器 | サイクロトン  |